








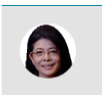
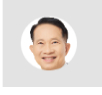
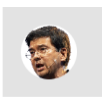






政党	候補者		経歴	公約の一例
タイ貢献党		ベートンタン シナワット	1986年8月21日生まれ 35歳 元首相タクシン・シナワットの末娘。叔母のインラック義理の叔父ソムチャーイ・ウォンサワットなど言わずと知れた政治一家 タイ貢献党の包括と革新に関する顧問責任者として政界に入り、その後、選挙対策委員会の顧問を務めた	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 6か月以内にDigital Walletを通して16歳以上の全国民に1万バーツを給付する</li> <li>(2) OTOP商品の輸出を拡大する</li> <li>(3) 外交問題 タイ国籍のパスポートの権利を取り戻す</li> <li>(4) 技術向上や知識向上のための外国投資の促進</li> <li>(5) 覚せい剤の取り締まり</li> <li>(6) PM2.5問題の解決と国民の健康</li> <li>(7) ソフトウェア強化</li> <li>(8) タイを世界で一番のイベント開催国にする</li> <li>(9) 電車運賃20バーツ統一化</li> <li>(10) 陸海航路全てにおいてタイをロジスティックハブとする</li> </ul>
		セタ タウィーシン	1963年2月15日生まれ 60歳 アメリカにて金融経営学の修士号を取得 その後P&G社の製造部門に勤務したのち、自身で起業して不動産業界に進出した ビジネスで成功を収めたセタ氏は卓越した発案力やビジネスの才能を生かして政界（首相に選ばれなかった場合は、議員を辞職すると言及している）に進出することを決めた。	
		チャイカセム ニティシリ	1948年8月26日生まれ 74歳 政府の奨学金で、米国コロンビア大学で法学修士号(L.L.M.)を取得 検察官として法務省の刑事副局長を経たのち、司法長官として引退。その後インラック・チナワット政権の法務大臣として就任した。	
国民国家の 力党		プラウィット ウォングスワン	1945年8月11日生まれ 78歳 元陸軍最高司令官 2014年のクーデター後、彼は国家平和秩序評議会（NCPPO）の副議長と副首相を務め、2019年の選挙を実施して「国民に権力を取り戻す」と発表し、国民国家の力党(PDP)を結成。その後も「プラユット首相の兄」として政権をサポートした	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 腐敗の不正をなくす</li> <li>(2) 全ての市民に経済的な能力と機会を創出する</li> <li>(3) 平和で力強く分かち合う社会作り</li> </ul>
前進党		ピター シムチャーラット	1980年9月5日生まれ 42歳 ハーバード大学政治政策部からケネディスクールオブガバメント奨学金を受け取った最初のタイ人学生であり、米国マサチューセッツ工科大学(MIT)の経営学部と2つの修士号を取得している。 彼の政治経験は、ソムキッド・ジャトウスリビタク副首相のワーキンググループから始まった。2019年の選挙では新未来党の第4候補として立候補し、政界の新しいスターとして知名度があがった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 民主的な憲法改正</li> <li>(2) 徴兵制度の廃止</li> <li>(3) 児童手当1200バーツ/月に増額</li> <li>(4) 最低賃金450バーツ/日に引上げ</li> <li>(5) 高齢者給付金3,000バーツ/月</li> <li>(6) 中小企業の救済</li> <li>(7) 地方を含む全国に電気バスの導入</li> </ul>
タイ誇り党		アヌティン チャンウィーラクン	1966年9月13日生まれ 57歳 1996年に外務大臣顧問、商務大臣顧問を経て政界をスタートし、その後2004年タクシン第2政権の時に副大臣(副大臣)に昇進。その時はわずか37歳。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 60歳以上の生命保険基金</li> <li>(2) エアコン付き電気バス</li> </ul>
民主党		ジュリン ラックサナウイセー	1956年3月15日生まれ 67歳 2019年の選挙後、アピシット元首相に代わって第8代党首になった タイの政党で最も歴史ある民主党は、今回の選挙で古いメンバーの大規模な流入を経験 1986年の選挙で勝利して以来、11期にわたって国会議員を務め、農業省、厚生労働省、公衆衛生省などで副大臣を務めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 経済、社会、健康、インフラといった4つの側面すべてで高齢者のケアを行う</li> <li>(2) 高齢者が活躍できる経済活動の機会を提供する</li> <li>(3) 国の高齢者組織へ活動資金30,000バーツを補助</li> </ul>
タイ団結国家 建設党		プラユット チャンオチャー	1954年3月21日生まれ 69歳 タイ王国陸軍士官学校第23期卒業 ロイヤルガードなどに所属し、2014年のクーデターで陸軍総司令官を務めたのち、国家平和維持業議会(NPCO)の議長となりクーデターを掌握しその後正式に首相に就任した 2期にわたり行政指導者を務め、その指導の下政府は長期的な国家改革計画と過去の政権の腐敗への取り組みを通じて、国の平和を回復させた。その結果、彼の評価は上昇し、特に南部では高い人気を誇っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活保護者(低所得者)への補助金を1,000バーツ追加 また緊急時に引き出せる金額上限10,000バーツとする</li> <li>(2) 100億バーツの予算で国の公的緊急基金を設立する</li> <li>(3) 負債を抱えている企業の救済</li> <li>(4) 国民の生活を妨げる法律の改正</li> </ul>
		ピーラパン サーリーラウィパーク	1966年2月21日生まれ 64歳 タイ団結国家建設党の立ち上げに成功し、党の第2候補となっている 米国チューレーン大学でアメリカ一般法(LLM)と比較法(MCL)の2つの修士号を取得している。 裁判官と司法官の両方で働いた経験があり、1996年から民主党(PDP)で政治に関与しており、アピシット政権では法務大臣を務めた その後、プラユット首相の顧問としてその名が広まり、タイ王国憲法の改正などについて検討する委員会の委員長を務めた	

政党	候補者		経歴	公約の一例
タイ建設党		スダーラット ケユラバン	1961年5月1日生まれ 62歳 「タイ初の女性首相」という言葉で何度も言及されてきたが、第28代首相インラック・シナワットが就任したことでその夢は破れた。 2019年の選挙では、選挙戦略委員会委員長としてタイ貢献党で主導的な役割を果たし、首相候補3名のうちの一人に選出されたが離党し、タイビルドタイ党(TRT)を立ち上げる。党首となり、2022年のバンコク市議会選挙に候補者を立て、2議席取得した	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ☑ 的年金3,000バーツ/月</li> <li>(2) ☑ 科を問わず大学までの学費無料</li> <li>(3) ☑ 北エリアの干ばつ対策</li> <li>(4) ☑ 兵制の廃止</li> <li>(5) ☑ 産物の販売価格を上げる</li> <li>(6) ☑ ーデータの違法取り締まり</li> <li>(7) ☑ 物の取り締まり</li> <li>(8) ☑ 型コロナからの企業の救済やSME支援</li> </ul>
		スパン モンコンスティー	1958年4月25日生まれ 64歳 アメリカのシティ大学で経営学部経営学修士とチュラロンコン大学政治学部の行政学修士2つの学位を取得 民間企業での勤務経験ではタイ産業連盟(FTI)の3代前の元会長。タイのCOVID-19との闘いを支援するためのSOT基金を設立し、中小企業を国家の議題に押し上げ、産業農業研究所を設立。低所得者向けの農業における製品の品質と生産を改善し、メイド・イン・タイ製品認証プログラムを確立した。	
		シター ティワリー	1964年11月6日生まれ 58歳 第24期士官学校予科を卒業後、空軍士官学校で理学士号を取得し、空軍パイロットを8年以上務めた 2000年にタイ愛国党の下で政界に入り、タクシンチナワット時代に政府のスポークスパーソンを務めた後、バンコク都議選で2回の当選し党の執行委員会のメンバーになった	
国民開発党		スワット リプタバンロップ	1952年2月9日生まれ 68歳 新党を立ち上げたり、別の党と合流した利を繰り返し、34年以上政治の世界に在籍しているスワット氏はこれまでに様々な重要なポストに就いている。 チャウリット政権の運輸大臣を始め、タクシン首相在任中には法務大臣や副首相も務めた	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ☑ 騰する燃料費に対して、国民へのばらまきではなく、国がお金を稼ぐ構造をつくる</li> <li>(2) ☑ 光産業発展のためのプラットフォームを作成する</li> <li>(3) ☑ 康な高齢者の就職支援、個人所得対策</li> <li>(4) ☑ 民の安全な暮らしのための建築プロジェクトなど</li> </ul>
		ゴーン チャーティックワニット	1964年2月19日生まれ 59歳 英国のオックスフォード大学で政治哲学の学士号を取得し、英国のファンド運用会社に3年間在籍ファンドマネージャーに就任。 その後JFタナコム証券を設立、24歳で同社のマネージングディレクターを務めた。 2004年民主党(PDP)を通して政界に進出。経歴を生かしてアピシット政権時代に財務大臣に就任、英国のバンカー誌から、1年間で経済問題を効果的に解決できる卓越した業績を残したアジア太平洋地域の財務大臣として賞賛された。	
		テーワン リプタバンロップ	1959年12月29日生まれ 64歳 党の第3候補 チュラロンコン大学で法学士号を取得 国民開発党とタイ愛国党に移る前は、ナコーンラーチャーシーマー県で議員を3期務めた	
タイ国民 発展党		ワラーウット シラパアチャー	1973年7月11日生まれ 49歳 アメリカのウィスコンシン大学マディソン校で経営学と財務の修士号を取得。2007年に政界入りした。 2019年の選挙ではワラーウットの姉であるカンチャナー・シラパアチャーのリーダーシップの下、10人の議員が議会に加わり、その後プラユット第2期政権に加わり3年間の天然資源環境大臣を務めた	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ☑ 世代の農家にカーボンクレジットを導入</li> <li>(2) ☑ 国にお米の品種を無料配布</li> <li>(3) ☑ 業用電力の拡大</li> <li>(4) ☑ 地の地下水システムを整備して浄水を提供する</li> <li>(5) ☑ 齢者の雇用創出・障害者手当</li> </ul>